

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

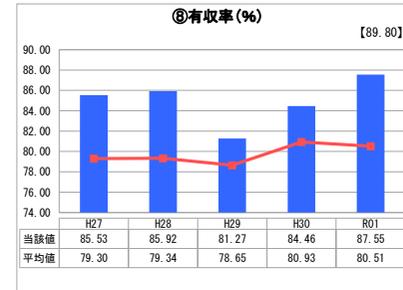
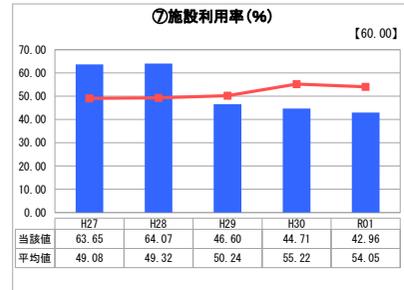
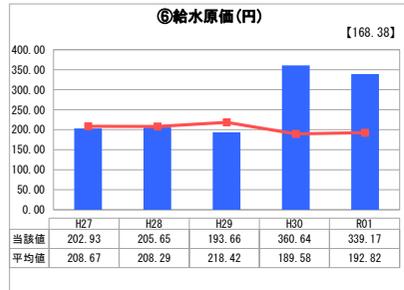
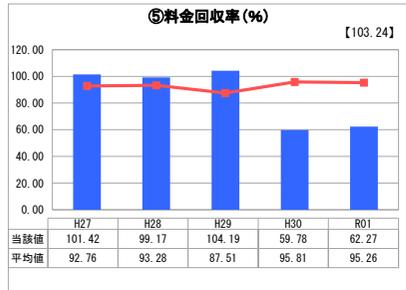
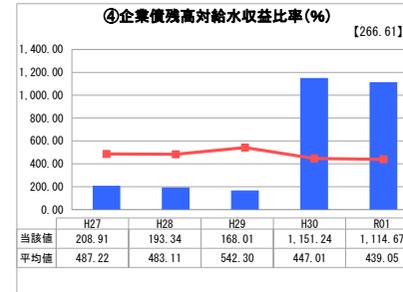
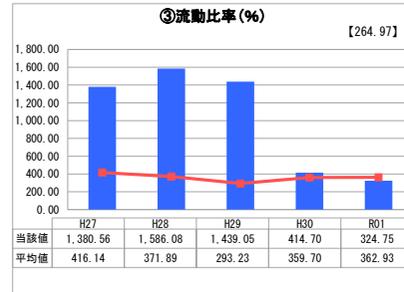
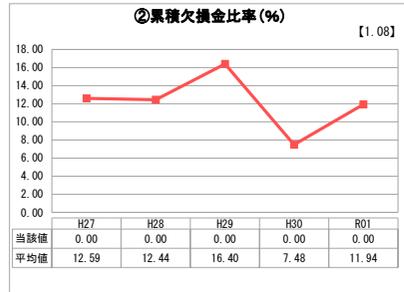
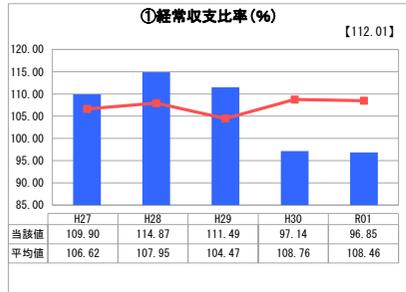
岡山県 鏡野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	60.64	95.73	4,167	

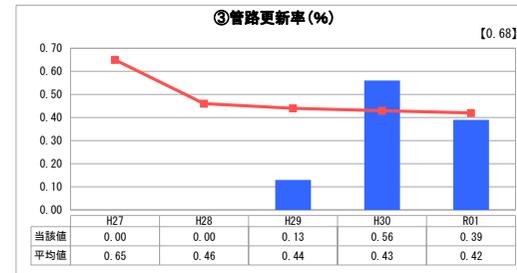
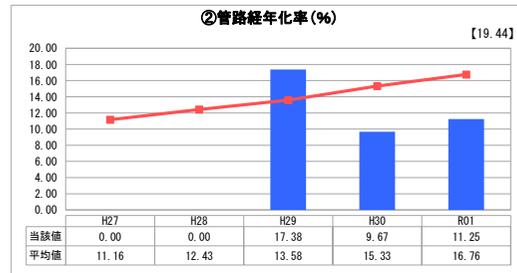
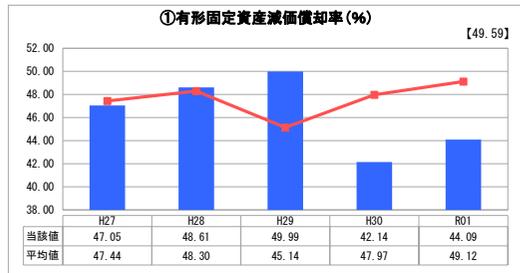
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,859	419.68	30.64
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
12,281	56.03	219.19

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
平成30年度の簡易水道事業統合に伴い前年度から依然として赤字経営である。
- ②流動比率  
現金預金の減少及び未払金・翌年度償還予定企業債の増加により比率が減少し、類似団体平均値を下回った。
- ③企業債残高対給水収益比率  
企業債の償還により比率が微減となったが、引き続き類似団体平均値を大幅に上回っている。
- ④料金回収率  
給水原価の減少により比率が微増したが、前年度に引き続き100%を大幅に下回った。給水に係る費用が給水収益で賄えていないことを表している。
- ⑤給水原価  
経常費用の減少に伴い微減したが、引き続き類似団体平均値を大きく上回っている。
- ⑥施設利用率  
近年類似団体平均を下回っており、施設規模が適切ではないと判断できる。
- ⑦有収率  
近年は配水管の漏水も少なく、類似団体の平均以上の有収率を保っている。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率  
平成30年度に簡易水道事業を統合したため、前年度から類似団体平均値を大きく下回っている。旧簡易水道分の有形固定資産が比較的新しいことを示している。
- ②管路経年化率  
平成30年度の簡易水道事業統合により引き続き類似団体平均値を下回っている。
- ③管路更新率  
平成29年度からの管路更新事業の計画に基づき当年度も老朽配水管の更新を実施した。

### 全体総括

平成30年度に簡易水道事業を統合したため、赤字経営に転落し、引き続き令和元年度も赤字経営のままである。令和2年4月から水道料金の値上げを行い、黒字化を目指している。令和2年度からは配水池等の大規模な施設更新を行うため、収支の効率化をより一層図りながら不要な資産の除却もあわせて進めていくことが今後の課題である。